

横浜共立学園
創立 150 周年記念事業
校舎等再整備計画
(新校舎建築および本校舎改修)

寄付金趣意書

横浜共立学園創立 150 周年記念事業校舎等再整備計画
(新校舎建築および本校舎改修)

＊寄付金募集委員会＊

委員長

坂田 雅雄 (理事長)

委員

小澤 伸男 (学校長)

三浦 昌子 (共立奨学会会長)

関水美和子 (前共立奨学会会長)

早坂 敏美 (同窓会会長)

野尻左和子 (前同窓会会長)

湯沢 誠 (後援会会長)

六川 勝仁 (後援会常任委員)

久保 義宣 (理事)

川島 志保 (理事)

柴崎 修二 (理事)

三武 好道 (理事)

渡辺 譲 (教頭)

荻野 準子 (教頭)

濱田理和子 (事務長)

監査

黒澤 淳雄 (監事)

古田 和彦 (監事)

＊編集・デザイン＊

株式会社 日本設計

＊発行＊

学校法人 横浜共立学園

＊発行日＊

2016 年 11 月

＊連絡問い合わせ先＊

学校法人 横浜共立学園

事務長 濱田理和子

〒 231-8662 神奈川県横浜市中区山手町 212 番地

TEL : 045-641-3785 / FAX : 045-641-9188

月曜日～金曜日 9:00～16:00 (祝日を除く)



学校法人
横浜共立学園

01. 横浜共立学園 創立 150 周年記念事業校舎等再整備計画にあたり



新校舎完成イメージ図（グラウンド側から望む）

校舎等再整備計画の基本的な考え

1. 本校舎の保存

横浜市指定有形文化財（第1号）に指定された歴史的建築物である本校舎を保存します。本校舎は1931年に竣工した本学園の象徴的建築物であり、卒業生の「心の故郷」でもあります。改修を行って今後も大切に使用し、活用していきます。

2. 従来通りの学園生活の継続

工事期間中も、学園生活が従来通り続けられるよう配慮した計画としています。仮設校舎は建てずに、現在の教室を使用しつつ建築を行い、完成したところから移転します。

3. キリスト教学校としての歴史・伝統・創立精神の継承

建築される校舎が、キリスト教学校としての歴史・伝統・創立精神を継承しつつ、新しい横浜共立学園の歴史と伝統を創造していく器として、十分な働きがなされるように考慮します。

4. 生徒の成長／変化／自律／学習

6学年の幅広い学齢に応じた教育環境をもつ校舎として、進級することに風景が変わり、生徒の成長に合わせた変化に富む施設となるようにします。また、低学年での学習のサポート、高学年での自学自習の学習形態にも対応できるようにします。

5. 生徒の交流／居場所／やすらぎ／生活

生徒の交流やふれあいが育まれる場所を計画し、やすらげる居場所をそれぞれが選べるよう、多様な生活空間を用意します。また、木材を多用した校舎や校地の緑化により、やすらぎと潤いのある雰囲気となるように計画します。

6. 防犯／防災／安全安心

建物や敷地の隅々まで目の届く見通しのよい環境となるよう計画し、防犯性を確保します。また、地震や火災等の災害に備え、建物の耐震、耐火性を高くし、避難経路や緊急車両の進入を考慮した動線を計画して、防災性を確保します。

7. すべての人にやさしく、一人ひとりの違いを大切に

すべての人が公平かつ快適に利用できるような生活空間となるために、ユニバーサルデザインを取り入れた校舎や環境とします。機能、品質と形態との調和により、だれにもやさしく快適に使える校舎を計画します。

8. 環境に配慮した校舎

新たな未来の校舎像を考え、環境にやさしい、エコ（省エネ）に力を入れた校舎とします。在室者、利用者の快適性を確保した上で、地中熱や雨水の利用等、できる限り環境負荷の少ない校舎となるよう計画します。

9. 変化への対応／長寿命な校舎／授業形態の多様化

長期的な視野に立ち、年月とともに風格や趣を増すような校舎とし、皆に長く愛され、思い出を継承できるようにします。また、将来的な教育の在り方の変化に対応できる計画とします。

理事長挨拶および寄付金ご協力のお願い



学校法人 横浜共立学園
理事長 坂田 雅雄

横浜共立学園は、1871年「米国婦人一致外国伝道協会」から派遣された三人の女性宣教師、ブライン、クロスビー、ピアソンによって開設された「アメリカン・ミッション・ホーム」から始まりました。翌1872年には山手212番の土地と建物を借りられることになりました。隣接の211番はS・R・ブラウン邸で、のちに新約聖書の和訳が行われた地でもあります。

以来現在に至るまで、学園は同じ校地で、一貫してキリスト教に基づき、自立の精神を養う女子教育を行ってまいりました。

関東大震災後、米国の篤志家の寄付金によって、S・R・ブラウン邸跡地に1931年に建てられたのが、現在の本校舎で1988年に横浜市指定有形文化財第1号として指定されました。現在学園は本校舎を中心に、南校舎（高等学校教室）、東校舎（中学校教室および理科芸術等特別教室）、体育館を使用して教育活動を行っています。

しかし、南校舎と体育館は、既に建築後50年を経過しており、震災等の際の生徒の安全を考慮し、建て直しの必要があると判断し、株式会社日本設計に依頼して、「校舎等再整備計画」を進めてまいりました。

学園所在地の用途地域区分では、高さ制限や建ぺい率、容積率などの制約があり、このままでは現状の教育施設を維持できないため、横浜市に都市計画提案を出し、第一種低層住居専用地域から第一種中高層住居専用地域への用途地域変更を提案し、2016年1月に審議会で決定され実現しました。

その間に建築費用は大幅に高騰して、建築計画は第1期、第2期、第3期と分割せざるを得なくなりました。

第1期工事は旧東校舎解体および新校舎建築、本校舎の改修工事で、事業に要する費用として総額36億円が見込まれています。その財源としましては、自己資金のほか、日本私立学校振興・共済事業団などからの借入金をあてる予定です。これら教育環境の充実に対する財源の確保は、学園の自主努力はもちろんです。しかし、将来の学園の経営における債務負担を考慮いたしますと、多くの方々に寄付金によるご支援を賜りたく、ここにご寄付のお願いを申し上げる次第でございます。

そこのこと恐縮ですが、この趣旨に皆様のご理解をいただき、ご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学園は今後も教育内容の充実、教育環境の整備などに、たゆまぬ努力を続けてまいりたいと思います。

校長挨拶



横浜共立学園中学校・高等学校
校長 小澤 伸男

横浜共立学園の150年近い歴史の中で、このたびの校舎等再整備計画は大変大きな事業として位置づけられると思います。この計画が実現していくことによって、学園はさらなる新しい時代へ向かって歩み出すことになるでしょう。神様の深いみめぐみのうちに、将来への希望に満たされ、新しい環境が与えられる喜びを共に分かち合いつつ、この新しい歩みが整えられていくことを祈るものがあります。

再整備計画は、教職員による建築委員会が中心となって、多くの協議と準備を重ねながら進められてきました。新校舎の建築にあたっては、学園が大切にしてきた「良いものを永く使う」という伝統を踏まえ、良質で格調の高い設備の充実が図られています。また、生徒がより快適に、心豊かに過ごせる校舎となるよう、細部にわたって様々な工夫が施されています。礼拝をはじめ授業や行事などの教育活動を通して、神様を愛し喜びを持って隣人に仕えていく心が、次の時代にも受け継がれていくことと思います。そして新校舎も既存の校舎と同じように、建学の精神が宿る校舎となっていくことと確信しています。

学園は、これからも建学の精神と長年培われてきた伝統を大切にしながら、新しい時代に向かって教育のより一層の充実に向けてまいります。今後とも学園の歩みをお支えくださいますようお願い申し上げます。

02. 建築計画について

下記のとおり、現在新校舎建築中です。その後、本校舎改修、南校舎解体、南校舎跡地（地下）に新体育館を建築する予定です。さらに、体育館跡地に礼拝堂の建築を予定していますが、工期は未定です。

敷地概要

- ・住所：横浜市中区山手町 212 番地
- ・敷地面積：13,959.58 m²

工事スケジュール

2016.4～	2017.4～	2018.4～	2019.4～	2020.4～	2021.4～
	新校舎建築				
旧東校舎解体		本校舎改修			創立 150周年
		南校舎解体	新体育館建築	体育館解体	

新体育館建築工事

新体育館上部をグラウンドにし、グラウンドの拡張を図ります。

また、環境の安定した地下であることを活かした空調計画を行います。

- ・用途：アリーナ 他
- ・構造：鉄筋コンクリート造
- ・階数：地下2階、地上2階
- ・建築面積：1,094.98m²
- ・延べ面積：2,865.04m²
- ・最高高さ：13.209 m

※上記内容は計画変更などにより変更の可能性があります。



本校舎改修工事

耐震改修をはじめ、内装・設備改修を行い、教育環境として安心・安全に配慮するとともに、横浜市指定有形文化財としての保存も行います。

新校舎建築工事

本校舎を中心に外観をR曲面とし、既存樹木を大切に残した配置計画とします。

外観は山手の街並みと調和する色彩を用い、スタッコ引抜仕上げとすることで、陰影のある意匠とします。

また、高さや広さに制約がある中、地下に新校舎内礼拝堂を祈りの空間として計画します。さらに、地上には、天井の高さを3m確保したHR教室を計画し、生徒のための豊かな教育環境を実現します。

- ・用途：礼拝堂、HR教室（高校）、教員室 他
- ・構造：鉄筋コンクリート造一部鉄骨、鉄骨鉄筋コンクリート、CFT造
- ・階数：地下1階、地上4階
- ・建築面積：1,443.42m²
- ・延べ面積：6,028.14m²
- ・最高高さ：14.99 m

※上記内容は計画変更などにより変更の可能性があります。



新体育館完成イメージ図（牛坂から望む）



新校舎完成イメージ図（バス通りから望む）

03. 寄付金募集要項・寄付金顕彰について

寄付金募集要項

目的・用途：校舎等再整備計画 新校舎建築および本校舎改修の経費に資するため

募集対象：教職員、旧教職員、保護者、卒業生、法人、その他ご支援いただける皆さま

寄付金目標額：3億円

募集期間：2016年12月1日～2021年8月末

建築費予定	新校舎建築	25億円	合計 36億円
	本校舎改修	6億円	
	設計料その他	3.5億円	
	什器備品等	1.5億円	

資金計画	自己資金	23億円	合計 36億円
	借入金	10億円	
	寄付金	3億円	

※自己資金の中には、本校舎改修に対する公的補助金（申請予定）が含まれます。

金額 個人 一口10,000円 3口以上ご協力頂ければ幸いです。
 法人・企業 一口50,000円 2口以上ご協力頂ければ幸いです。
 ※ただし、個人、法人・企業ともに上記金額にかかわらず、ありがたくお受けします。

● 寄付の申し込み方法

同封の振込用紙に必要事項をご記入の上、ゆうちょ銀行窓口・ATMもしくは銀行窓口にてお振込みください。
 ゆうちょ銀行・横浜銀行・みずほ銀行をご利用の場合、手数料は不要です。

※ ご記入にあたっての留意事項

- ご利用の振込先に○を付けてください。ゆうちょ銀行をご利用の場合は不要です。
- いずれかに○を付けてください。
- 税制上の優遇措置をご利用される場合は、申告者ご本人の氏名をご記入ください。
- 依頼人氏名が保護者・保証人等のご家族の場合、在校生・卒業生の氏名をご記入ください。

● 寄付金顕彰について

ご寄付いただいた方は、ご芳名を『寄付金報告書』に掲載いたします。（匿名をご希望の場合はこの限りではありません。また、個人の方の金額は掲載いたしません。）
 5口以上ご寄付いただいた方には、『本校舎・南校舎・体育館の施設記録DVD』を贈呈いたします。

寄付金に対する免税措置

● 個人の場合

神奈川県知事より寄付金控除の対象となる（「特定公益増進法人」の証明を受けており、所得税の寄付金控除の措置を受けることが出来ます。
 控除には、「税額控除」と「所得控除」の2種類あり、どちらか一方の制度を寄付者自身が確定申告の際に選択していただけます。
 控除額は、個人の所得、税率、寄付金額などの状況により異なります。

- 1. 税額控除**
 寄付金額（所得の40%が限度）から2,000円を差し引いた額の40%を所得税額から控除できます。（ただし、所得税額の25%が上限）
- 2. 所得控除**
 寄付金額（所得の40%が限度）から2,000円を差し引いた額の40%を所得（課税所得金額）から控除できます。
 ※確定申告にかかわる詳細につきましては、最寄りの税務署にお問い合わせください。

● 法人の場合（受配者指定寄付金）

日本私立学校振興・共済事業団（以下「事業団」）の受配者指定寄付金制度を利用した寄付金は、寄付金全額を当該事業年度の損金として算入できます。
 手続きには、事業団が発行する「寄付金受領書」が必要となります。これに関する事業団への諸手続きは、本学園が行います。
 寄付金の受領日が、寄付金を支出した当該年度を過ぎると、その年度の損金算入が認められなくなります。
 つきましては、決算日の1か月前までには本学園への寄付金申込書の提出と寄付金のお振込みをしていただきますようお願い申し上げます。

04. 学園の沿革

- | | |
|--------------|---|
| 1871年（明治4年） | プライン、クロスビー、ピアソンが来日
アメリカン・ミッション・ホームを創立 |
| 1872年（明治5年） | 山手212番地（現在地）に移転、校名を日本婦女英学校と改称 |
| 1875年（明治8年） | 校名を共立女学校と改称 |
| 1881年（明治14年） | ピアソンが偕成伝道女学校を設立 |
| 1907年（明治40年） | 偕成伝道女学校を共立女子神学校と改称 |
| 1923年（大正12年） | 関東大震災により共立女学校が全焼 |
| 1931年（昭和6年） | 創立60周年記念式
W・ヴォーリズ設計の本校舎（現存）と体育館竣工 |
| 1932年（昭和7年） | 財団法人「横浜共立学園」設立 |
| 1943年（昭和18年） | 共立女子神学校は日本女子神学校へ合同 |
| 1945年（昭和20年） | 戦災により校舎焼失、本校舎のみ残る |
| 1946年（昭和21年） | 私立学校における宗教教育、宗教儀式の回復 |
| 1949年（昭和24年） | 東校舎（旧東校舎）竣工 |
| 1951年（昭和26年） | 私立学校法により学校法人に組織変更し、
校名を横浜共立学園中学校、横浜共立学園高等学校と改称 |
| 1961年（昭和36年） | 南校舎（現存）竣工 |
| 1969年（昭和44年） | 体育館（現存）竣工 |
| 1971年（昭和46年） | 創立100周年記念式 |
| 1988年（昭和63年） | 本校舎が横浜市指定有形文化財第1号の指定を受ける |
| 1992年（平成4年） | 創立120周年記念特別教室棟（現東校舎）竣工 |
| 1995年（平成7年） | 創立120周年記念中学校校舎（現東校舎）竣工 |



現在本校舎が建っている山手211番地は、S.R.ブラウン邸があった場所で、新約聖書の翻訳が行なわれた記念の地です。この「新約聖書と訳記念之地」のタブレットは、本校舎落成（1931年）に際して米国聖書協会から贈られたものです。



「グリーン・ベンチ」は横浜共立学園の草創期に、米国から届けられた緑色の鉄製ベンチで、関東大震災で唯一焼け残った学園の貴重な「歴史」です。現在のグリーン・ベンチは、複製ですが、今なお愛されて校庭に置かれています。